

足元から見る芦生の森

植物と土をつなぐ物質と微生物



森林の生態系を守ることの重要性

シカの食害が長期化するなか、植物の生育基盤である土壌や、土壌中の微生物群集・物質循環まで含めて、森林生態系を守る事が重要です。

本講演会では、芦生の森で、シカの食害が深刻化する前から物質循環を研究されてきた館野隆之輔教授(京都大学フィールド科学教育研究センター・センター長)と、土壌微生物群集を研究している 松岡俊将講師(芦生研究林・林長)から、シカの食害が物質循環や微生物に与える影響を講演いただきます。続いてそうした変化が、ブナの成長や生存、土壌の炭素貯留機能にまで波及することを、若手研究者の阿部隼人助教(九州大学)にご紹介いただきます。

芦生生物相保全プロジェクト(ABC プロジェクト)が始まって20周年、京都丹波高原国定公園の設立からも10周年にあたる今年、次の10年にむけて、新たな視点からの保全が求められています。

◆ 日 時：令和8年11月15日(日)

午後1時～4時

◆ 場 所：京都府立京都学・歴史館 大ホール

◆ 料 金：参加費無料

◆ 申 込：事前申込制(先着順・締切 11/12 午後5時迄)

空席がある場合のみは、事前申込なしでもご参加いただけます

・QRコードからウェブフォーム

・電話(芦生研究林 0771-77-0321)



・電車でお越しの方

京都市営地下鉄【烏丸線】北山駅【K03】(1番、3番出口)南へ徒歩約4分

・バスでお越しの方

北山駅前(京都市バス4系統・北8系統)南へ徒歩約4分

府立大学前(京都市バス1系統・204系統・205系統・206系統・北8系統/京都バス32系統・34系統・35系統・46系統)

北へ徒歩約6分

主催：京都府(自然環境保全課・京都府立植物園) ・ 芦生生物相保全プロジェクト・京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林
後援：きょうと生物多様性センター運営協議会、一般財団法人 タキイ 財団

